

経営比較分析表（令和2年度決算）

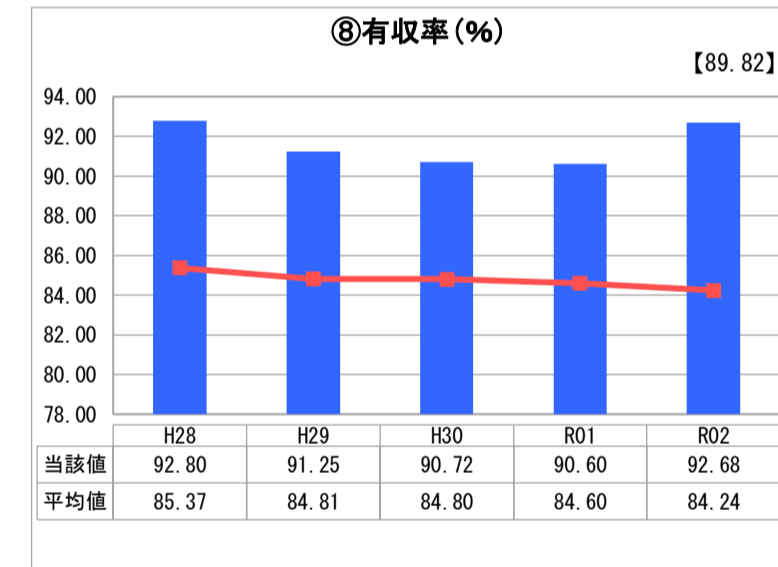
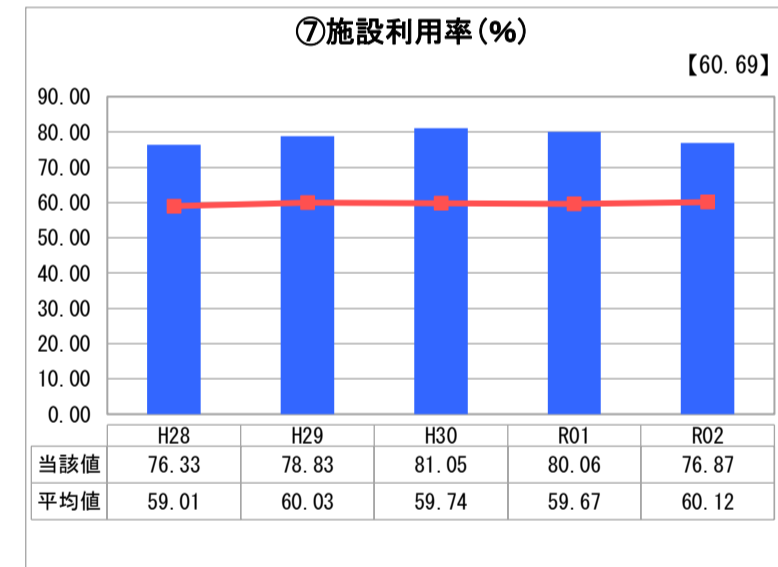
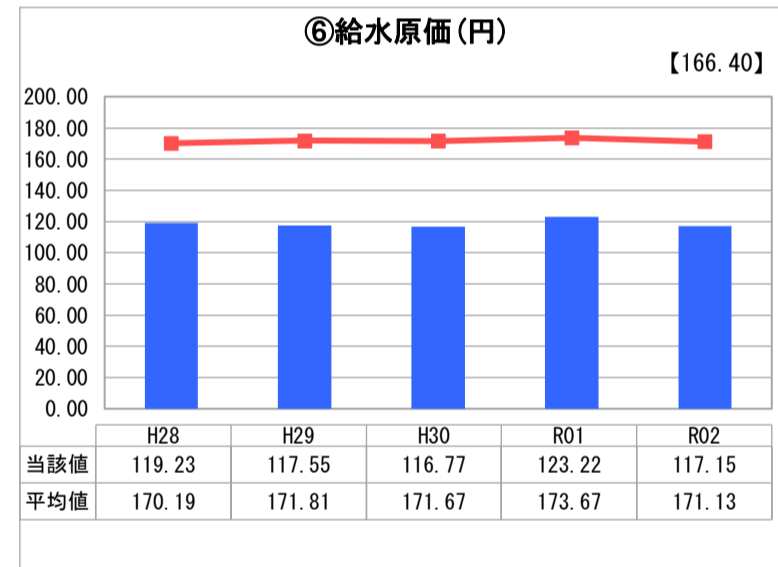
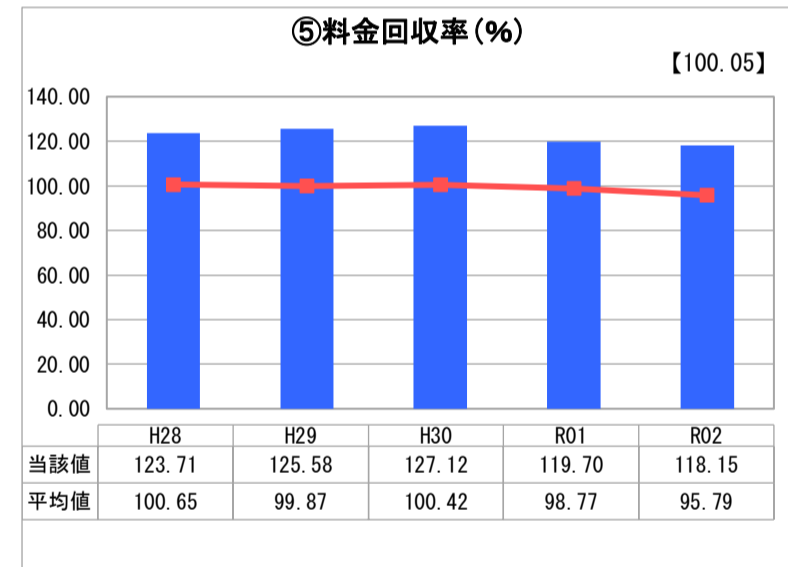
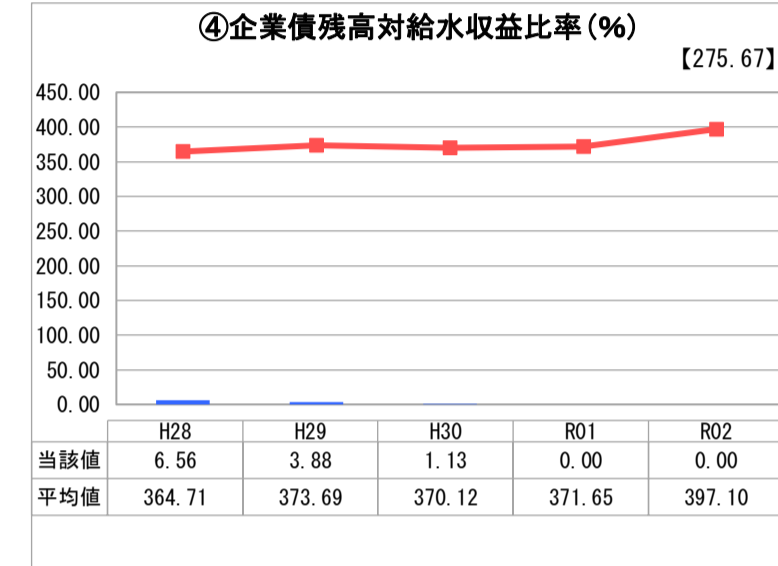
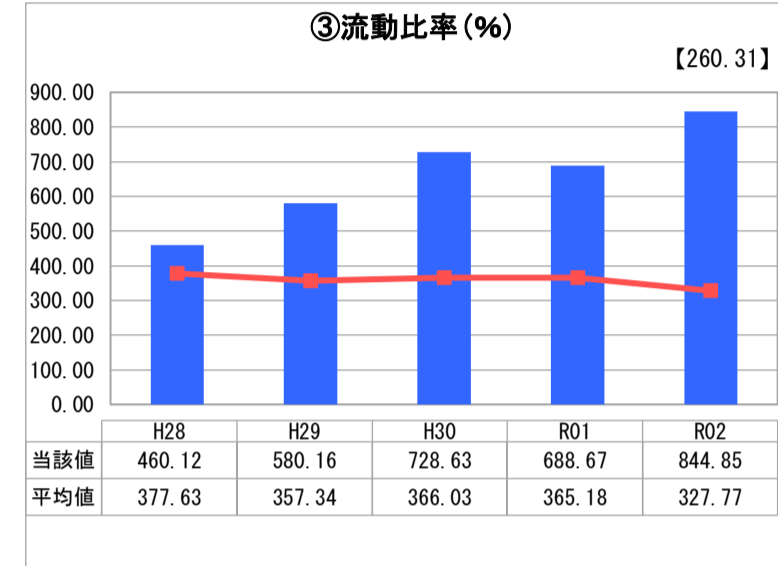
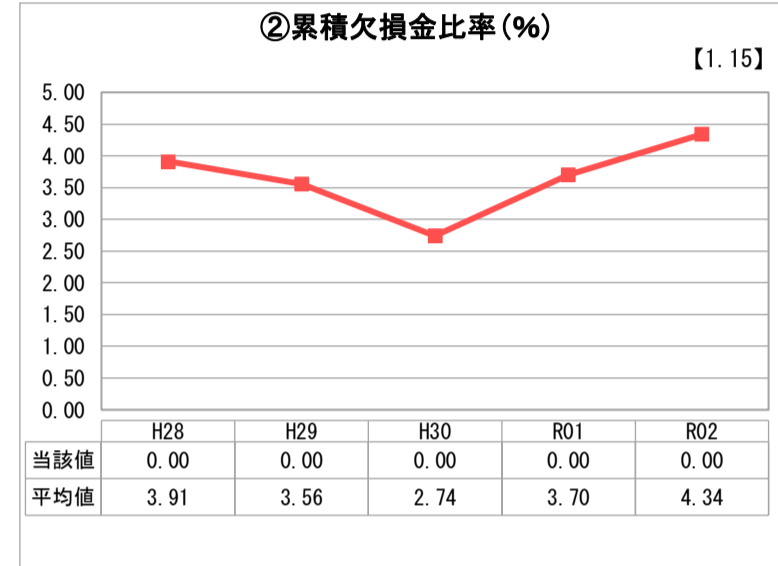
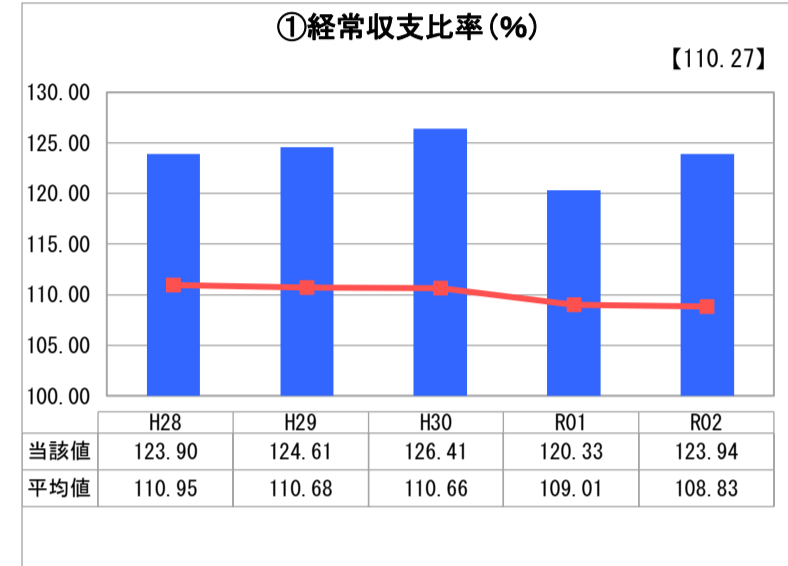
愛知県 幸田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.83	99.85	2,442	

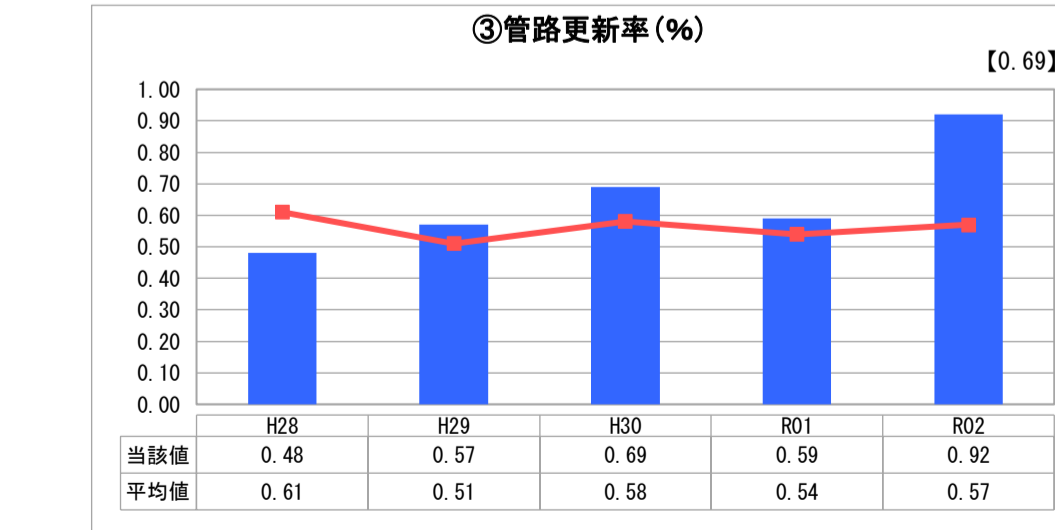
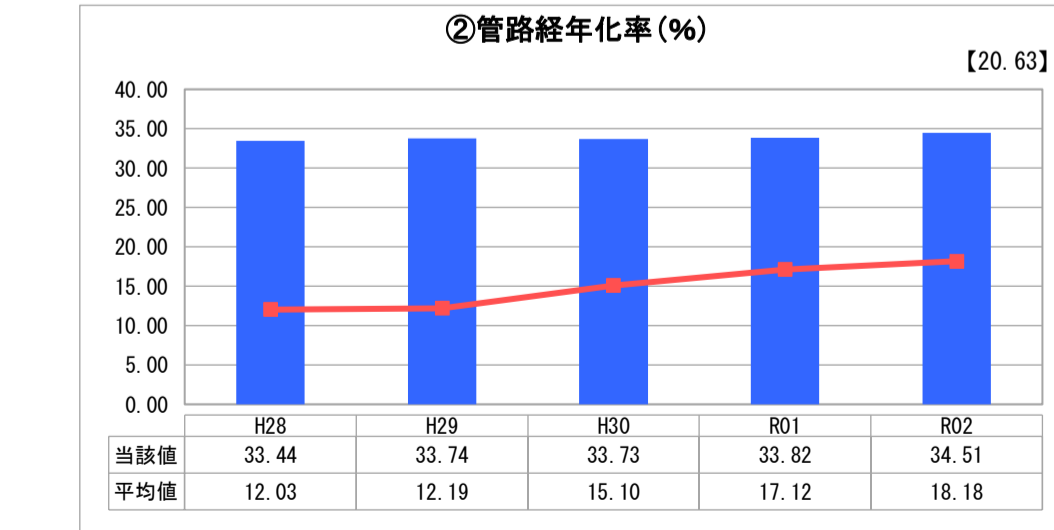
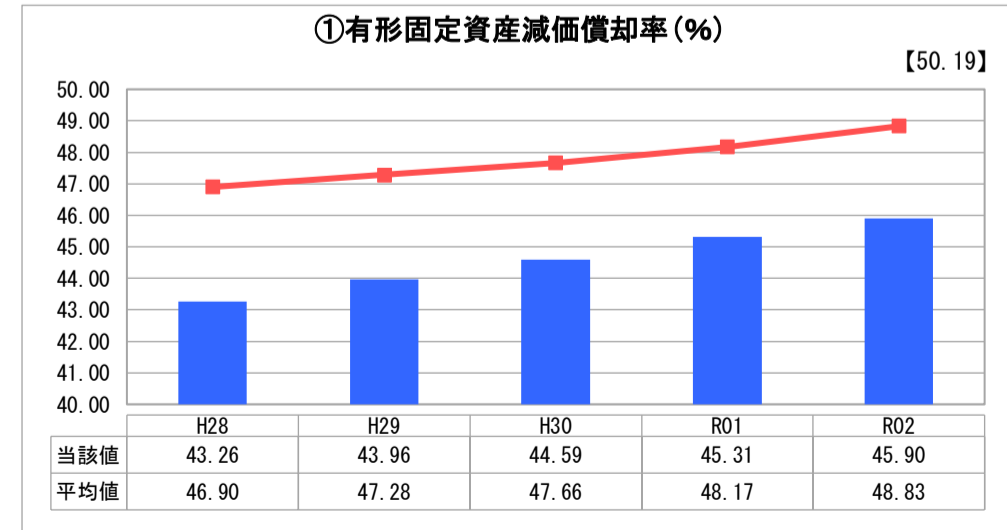
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
42,581	56.72	750.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
42,593	54.38	783.25

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び⑤料金回収率につきましては、給水収益は減少しましたが、いずれも100%以上を維持しており、全国・類似団体平均値よりも高い水準で推移しています。経常収支比率の100%を超えた分につきましては、今後の更新投資に充てるために必要な財源として確保したものであります。また、②累積欠損金もなく、健全な経営が保たれています。

③流動比率は増加し、また④企業債残高対給水収益比率につきましては、企業債を返済し新規起債がなく、企業債残高が0のため、指標が0となっています。

⑥給水原価につきましては、昨年度より6.07円減少し、全国・類似団体平均値よりも低く、料金収入を得るための費用が安価となっている状況です。今後も効率的な経営に努めます。

⑦施設利用率につきましては、令和2年3月に1日最大給水量を16,800m³から17,600m³に変更したこともあり、やや減少しましたが、全国・類似団体平均値を大きく上回っています。今後も既存施設の能力を効率的に利用して健全な経営状態の維持に努めます。

⑧有収率につきましては、漏水調査及び対策の効果もあり2.08%増加し、全国・類似団体と比較しても高い水準を維持しています。今後も漏水の早期発見・修繕に努めます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率につきましては、平成27年度稼働のポンプ場関連の整備後もライフライン機能強化等事業等を継続して進めてきましたが、水道事業創設時に集中して整備した管路が法定年数を経過しており、古い管路の布設替工事も充分に進んでいないため、微増となりました。全国・類似団体平均値は下回っています。

②管路経年率につきましては、全国・類似団体平均値よりも高い状況にあります。これは、水道事業創設時に集中して整備した管路が法定耐用年数を経過したことによるものです。

③管路更新率につきましては、近年、ライフライン機能強化等事業を進めているところですが、令和2年度も配水管布設替工事等を実施し、類似団体平均値を上回る結果となりました。今後、水道施設更新計画に沿って、中長期的な視点に立った計画的かつ効率的な更新に努めてまいります。

全体総括

経営状況は、企業債を返済し健全な財政運営を維持しています。また、老朽化の状況に係る指標からは、水道事業創設時の管路が耐用年数を迎えたことにより、管路の老朽化の進行に対し更新が充分に進んでいない状況が見受けられます。ライフライン機能強化等事業を継続的に進めてきたことにより、管路更新率は、類似団体平均値を上回る値を維持しています。

「安全」「強じん」「持続」の観点から、平成30年度「水道施設更新計画」、令和元年度「新水道ビジョン」、令和2年度「経営戦略」を策定しており、今後適宜見直しを図りながら、これらに基づいた老朽管路等の計画的かつ適正な更新を推進し、経費削減や有収率の向上に取り組むなど、健全な事業経営の維持に努めてまいります。